

いわた

文化財だより 第213号

磐田市教育委員会教育部文化財課 令和4年12月1日発行

目次

- 第26回歴史文書館企画展 P1～2
- 資料を守る P3
- 新磐田市指定文化財 特別公開来場御礼 . . . P4
- コラム『奈良時代の磐田には七重塔が
2つあった!?』渡邊武文 P4

第26回歴史文書館企画展

『中泉御殿にて 家康、泰平の世づくりを練る ～徳川家康と磐田～』



歴史文書館イメージキャラクター
『文字朗』



大池（磐田市）

中泉御殿跡

「中泉村御殿跡」
（磐田市指定文化財「遠江秋鹿家関係資料」
『大池絵図』秋鹿家蔵より）

令和5年1月16日(月) ～ 3月10日(金)

2月11日(土)、23日(木・祝)、3月5日(日)は市指定文化財「成瀬家文書」を特別公開

3月5日は歴史学習会も開催（詳細は1月号の広報いわた・文化財だより、ホットメール、LINEで告知）

- ▶休館日 土曜日・日曜日・祝日※ただし2月11日(土)、2月23日(木・祝)、3月5日(日)は開館
- ▶時間 8:30～17:00（入館は16:30まで／入場無料）
- ▶会場 磐田市歴史文書館展示室ほか（磐田市竜洋支所内）
- ▶問合せ先 磐田市歴史文書館 TEL0538-66-9112

磐田市中泉^{あざ}字「御殿」。この地名は地元住民だけではなく、市民にも広く知られています。

今回の企画展は、NHK大河ドラマ「どうする家康」の放映に合わせ、中泉にあった徳川家康ゆかりの「御殿(※)」がテーマです。家康にとって重要な拠点であった「中泉御殿」。関ヶ原の戦いや大坂の陣の出陣前には宿泊し、御殿周辺では何度も鷹狩りをおこなっていました。その「中泉御殿」の実態を、歴史資料や発掘調査の成果から明らかにしていきます。(※) 将軍の宿泊施設



山崎 みどころ①

16世紀後半から1670年まで「中泉御殿」があった場所には府八幡宮の神主等を務めた秋鹿家の邸宅がありました。

秋鹿家は家康にとってどのような存在であったのか。その後、秋鹿家の邸宅はどこに移ったのか。そして、現在の中泉歴史公園に至るまでの変遷をたどっていきます。



磐田市指定文化財「遠江秋鹿家関係資料」
『中泉八幡宮領絵図』(部分) 17世紀後半 秋鹿家蔵

山崎 みどころ②

これまでに発掘調査でわかった「中泉御殿」の調査内容を紹介します。発見された濠^{ほり}や建物跡などや、後に御殿が拡張された時期、城の機能を備えた特徴など、その成果を明らかにします。出土遺物も併せてご覧ください。



中泉御殿で使われた瓦



天目茶碗

白山之両社右之場所所有之候節故手長橋と申伝候(略)

(略)御鷹野御通用之橋ニ御座候手長

「乍恐以書付奉願候」大原鈴木家文書 歴史文書館蔵

山崎 みどころ③

鷹狩りを好んでいた徳川家康は、「中泉御殿」の南側に広がっていた大池を気に入り、上洛や駿府城の往復の際に立ち寄っています。

大池へ鷹狩りに行く際、家康が使用したのが「手長橋」です。上の絵図にも描かれています。本企画展では、絵図や今年新たに歴史文書館に寄贈された資料の内、「手長橋」について記された文書も紹介します。

新磐田市指定文化財成瀬家文書 特別公開

本年9月に新しく磐田市指定文化財に指定された「成瀬家文書」のうち、「徳川奉行衆連署状」「伝馬朱印状」など、家康が定めた宿駅制度に関わる文書を**2月11日(土)、2月23日(木・祝)、3月5日(日)の特別開館日のみ公開**します。



磐田市指定文化財「成瀬家文書」『徳川奉行衆連署状』歴史文書館蔵

史料の劣化を防ぐため、このほかの会期中は複製パネルでの展示となりますので、原本をご覧になりたい方は、特別開館日にぜひお越しください。

資料を守る

～台風 15 号の大雨被害からの救出・処置～

令和4年9月、台風15号の大雨によって、磐田市は大きな被害を受けました。豊岡地区では住宅のみならず学校も床上浸水にみまわれ、体育館や教室にも被害が及びました。その中には、資料などを保存・保管していた職員室や校長室も含まれていました。歴史文書館でおこなった、台風被害にあった資料の救出・処置について紹介します。

資料の救出

豊岡北小学校で、水に浸かってしまった明治30～40年代の学校関連資料、学校の行事などを記録した写真やアルバムなどを文書館などへ搬出しました。

キッチンペーパーが湿ったら取り換えるを、乾くまで繰り返します。

資料の処置

資料を濡れた状態のままにしておくと、すぐにカビが発生・進行してしまうため、初期対応として1ページごとにキッチンペーパーを挟み、資料に含んだ水を吸わせていきました。



資料にキッチンペーパーを挟み乾燥させる

それから、扇風機を使い、紙を乾燥させてカビの発生や腐敗を抑制しました。

乾燥が進まなかったもので、解体できる資料については一度分解し、乾燥後に再製本しました。

作業中は必ず換気、マスク・ゴム手袋を着用するなど、作業環境・安全に気を付けながらおこなっていました。

アルバムはページを開いて立て、被害の少なかった文書類は並べて、扇風機を使って乾燥させました。



資料に風をあて乾燥させる

乾燥させた資料のその後

一度水分を含んだ資料は、膨らんだり波打ってしまったため、重石などを使用し、均一に圧力をかけて元の形に戻るよう務めました。

処置を終えた資料は目録を作り、相互確認のため一旦学校に返却しました。この後、明治時代の資料など貴重な資料については歴史文書館に移管していきます。これらの資料については、歴史資料として保管・活用をおこなっていきます。

特別公開来場御礼

新磐田市指定文化財 新豊院山古墳群出土資料

10月29日（土）から11月4日（金）まで開催した新磐田市指定文化財の新豊院山古墳群出土資料特別公開では316名の方にご来場いただき誠にありがとうございました。

ご来場いただいた方からは、「磐田から教科書に出てくる三角縁神獸鏡が出土したと知って興味深かった」、「三次元測量データによって普段見られない鏡の表面を見ることが出来てよかった」などの感想をいただきました。

今回展示した新豊院山古墳群出土資料と同時に磐田市指定文化財に新たに加わった成瀬家文書は令和5年2月11日（土）、2月23日（木）、3月5日（日）に歴史文書館（竜洋支所内）の企画展にて公開します。ぜひ、お越しください。



鏡の三次元測量データを堪能する来館者

ありがとうございました



磐田市文化財課イメージキャラクターともちゃん

職員リレー コラム

ななじゅうのとう 奈良時代の磐田には七重塔が2つあった!?

渡邊 武文

木造建築の華として寺院に築かれた塔は多くの人を魅了するが、奈良時代の磐田には七重塔が2つあったのかもしれない。一つは、遠江国分寺の塔であり、もう一つは平安時代前期に成立したとされる『日本靈異記』に記載された「磐田寺」の七重塔である。

『日本靈異記』には、聖武天皇の治世に磐田郡の丹生直弟上という人が、左手を握ったまま生まれてきた娘が7歳になった時に、釈迦の遺骨を2粒握っていたことが明らかになったことに歓喜して七重塔を建てたと記されている。その際には、遠江国司や磐田郡司は熱狂し、民衆に金品を寄進し、労役を提供して塔の建立に協力するよう勧めた。そして、この塔が、現在磐田郡内に建っている「磐田寺」の塔であると書かれている。

「磐田寺」を巡っては、寺谷廃寺や大宝院廃寺が有力な候補地とされてきたが、遠江国分寺の塔跡の規模等から想定されるように、七重塔にかかる膨大な労力や費用から、現時点では聖武天皇の命令で建てられた国分寺の可能性も捨てきれないと考えている。遺跡の発掘調査をおこなっている身にあっては、地下から明らかになる日が楽しみである。

また、塔を建てて間もなく娘は亡くなったが、この人はどこに葬られたのだろうか。伝承されていた仏教説話をまとめた『日本靈異記』の内容がどこまで史実を反映しているかは分からないが、こうした謎に思いを巡らせるのもまた楽しい。

編 新豊山古墳群出土資料に続き、成瀬家文書
集 も特別に公開します。徳川家康に関連した
後 文書の原本を見ることが出来ます。この機
記 会にぜひ歴史文書館にお越しください。

発行：磐田市教育委員会事務局教育部
文化財課(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699

◆WEB版は市HPから閲覧できます。磐田 文化財だより

検索